

## ○小学校国語＜並木小学校＞

- 国語A(主として知識)について、児童の平均正答率が県72.5%, 全国72.9%を大きく上回っている。ローマ字の読み書きを身に付けている児童が多い。
- 国語B(主として活用)について、児童の平均正答率が県57.7%, 全国57.8%を大きく上回っている。グラフや表を読み取り, 自分の考えを書く力を身に付けている児童は全国平均をやや上回るが, 記述式の無回答率が全国の2倍以上で非常に多い。

## ○課題等

### 話すこと・聞くこと

- ◆ (A) 目的や意図に応じて, 収集した情報を関係づけながら話し合うことに課題がある。
- ◇ (B) 話し手の意図を捉えながら聞き, 譚の展開に沿って質問することができる。

### 書くこと

- ◇ (A) 説明文で, 書き手の表現の仕方をよりよくするための助言ができる。
- ◇ (A) 目的や意図に応じて, 書く事柄を整理することができる。
- ◆ (B) 目的や意図に応じて自分の考えを書く力を, 半数以上の児童が身に付けている一方, 無回答率が非常に高く, 苦手な児童は書くことをあきらめてしまう傾向が見られる。

### 読むこと

- ◇ (A) パンフレット等にある図や表を関連付けながら必要な情報を読み取ることができる。
- ◆ (A) 物語を読み, 登場人物の人物像を説明するために, 根拠となる表現を見つけることに課題がある。
- ◇ (B) 目的に応じて, 資料となる本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫したり, 自分の考えを明確にしたりしながら読み取ることができる。

### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ (A) ローマ字を正しく読んだり, 書いたりすることができる児童の割合が非常に高い。
- ◆ (A) 漢字を正しく読んだり, 書いたりすることができる児童の割合は, ほぼ全国平均と同じであるが, 正答率が全国平均を下回った設問についての無回答率がとても高い。

◇…相当数の児童ができていない点      ◆…課題のある点      ( ) の記号は, A=国語A, B=国語B

## ○指導改善のポイント

### 話すこと・聞くこと

- 人の話を「聞く」指導を，日頃の学級指導から行う。
- 国語科だけでなく，すべての教科指導，教育活動の中で自分の考えを説明したり，友だちの考えを聞いたりする活動を意図的に取り入れていきたい。
- 話し合い活動を行う際には，必ず話し合いの視点を示し，目的や意図に応じて意見交換をすることができるように場を設定していく。

### 書くこと

- 国語科だけでなく，社会科や総合的な学習等の中で，目的や意図に応じて取材したり，調べたりする活動を取り入れる。記事にまとめる時には，調べた事柄を羅列するだけでなく，そのことから「何を感じたか」「どんな考えを持ったか」など，自分の考えを書くことを意識付けさせるようにしたい。

### 読むこと

- 5年生の総合的な学習等の取組で新聞記事や日常生活で目にするパンフレットや募集案内などを学習に取り入れ，内容を読み取らせてきたことで，必要な情報を読み取る力がついてきている。今後も時事問題等に目を向けさせ，新聞や資料を読み取る力，さらに活用する力を伸ばしていきたい。
- 朝の読書の時間や図書室の利用時間などを充実させ，読書の機会を多くしていく。また，読書が苦手な児童には，読み聞かせボランティアが読んでくれた本を教室に置いて，自分でも読ませるなど，読書への抵抗を少なくする工夫をする。また，教科書で学習した作品の同じ作家の本など，単元に関係のある本を教室にそろえるなどの工夫をする。
- 物語逗の読み取りでは，表現のよさに目を向けながら読ませるようにする。そのため文章から読み取った感想や考えを発表する時には，その根拠を尋ねる切り返しの発問を心がけ，発表が単発で終わらないようにする。

### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 新出漢字の読み・書きの指導を高学年でも丁寧に行う。また，朝学習や家庭学習などを利用して，反復練習を行う。LD傾向のある児童など，反復練習が効果的でない児童もいるので，漢字を分解して書き方を声に出して練習するなど，練習方法を工夫していきたい。
- 漢字小テストなどを継続的に実施し，意欲を持たせるようにする。
- 漢字検定の過去問題や練習問題には，読み・書き以外に部首や熟語の意味など，さまざまな設問があるので，反復練習が苦手な児童にも興味を持って取り組めることがある。研修室にプリントを常時用意しておくので，朝学習や家庭学習で活用していきたい。